

AI時代における病院図書室と 医療司書のあるべき姿

病院内の医療スタッフ向け図書室における司書の役割転換



AI技術

×



医療司書

=

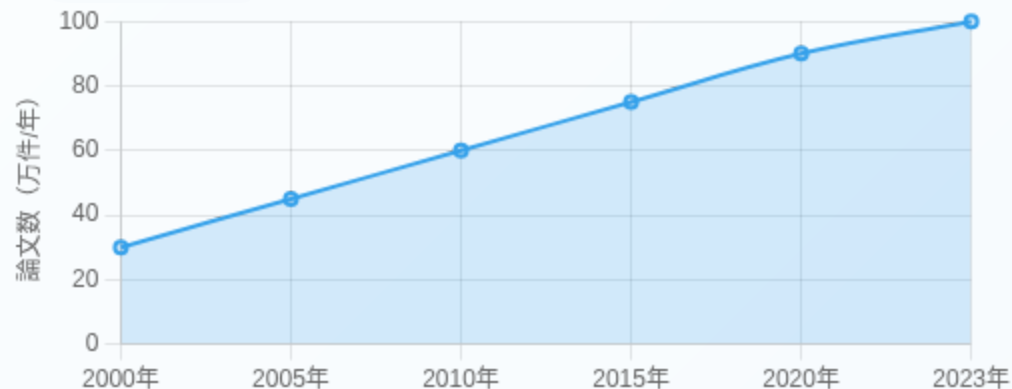


新たな価値創造



研究背景と医療情報環境の変化

医療情報の爆発的増加



- ✓ 医学分野の**学術論文は年間約100万件以上**発表
- ✓ 医療従事者が**全ての最新情報を追跡**することは**物理的に不可能**
- ✓ 情報アクセス方法の**多様化・複雑化**

AI技術の進展



診断支援



画像解析



医療記録管理



文献検索・分析

Frey & Osborne (2017) の研究：

図書館司書は**将来的にAIに代替される可能性が65%**と予測

AI時代における病院司書の役割変化



従来型業務の自動化

AIによって自動化が進む従来の業務



資料管理

収集・整理・保存の自動化



基本検索サポート

定型的な情報検索の自動化



貸出・返却管理

資料の貸借システム自動化



定型的なレファレンス

一般的な質問応答の自動化



統計報告作成

定型レポート生成の自動化

“ Frey & Osborne (2017) の研究では、図書館司書は**将来的にAIに代替される可能性が65%**と予測



新たな専門性の台頭

AI時代に求められる新たな専門性



AIリテラシーと評価能力

医療AI技術の特性・強み・限界の理解



高度な情報評価・統合能力

質の高い医療情報の選別・評価・統合



データサイエンスとデータ管理

データ収集・整理・分析・保存・共有



医療AI倫理の専門知識

プライバシー・公平性・透明性の確保



学際的コミュニケーション能力

多分野専門家との効果的な協働



教育・指導能力

AI・情報・データリテラシーの教育

医療司書の新たな役割モデル

AI時代における病院図書室司書の4つの新たな中核的役割



知識ナビゲーター

AIでは対応困難な複雑な臨床質問や研究質問に対して、専門的な知識と経験に基づいたナビゲーションを提供

- 複雑な情報ニーズの分析・理解：複数の専門分野にまたがる高度な質問の整理
- 高度な情報検索戦略の設計：エビデンスレベルを考慮した最適な検索式の構築
- 情報の文脈的統合：専門知識を活かした情報の評価・解釈・統合
- 臨床決断支援：個別患者の状況に合わせた最新エビデンスの提供

“ 複雑な医療情報の海から、価値ある知識の道筋を示す専門家（p.44-45）



AIリテラシー教育者

医療スタッフや研究者がAIツールを適切に理解し、評価し、活用できるように支援する役割

- AIリテラシー教育プログラムの開発・実施：医療AI基礎、評価法、活用法
- AIツール評価基準の策定：医療AIツールの信頼性・有効性の評価方法
- 個別コンサルティング：診療科・研究チーム別のAIツール活用支援
- 情報検索・評価におけるAI活用法の指導：効果的なプロンプト設計など

“ 医療スタッフがAI技術を批判的に評価し、適切に活用するための教育者（p.45）



知識創造・イノベーション支援者

研究計画への参画、知識共創空間の設計・運営、オープンイノベーションの促進

- 研究デザイン段階からの参画：情報資源設計、データ管理計画策定支援
- 知識共創空間のデザイン・運営：学際的チームの協働を促進する環境整備
- データ可視化・知識マッピング支援：複雑な医療情報の視覚化支援
- オープンサイエンス促進：データ共有、オープンアクセス推進支援

“ 多様な専門家の知識を結集し、新たな医療知の創造を促す触媒（p.46-47）



医療AI倫理の専門家

医療AI倫理委員会への参画、倫理教育の実施、倫理的評価支援、患者の理解促進

- 医療AI倫理委員会への参画：情報とデータの専門家としての視点提供
- 医療AI倫理教育の実施：プライバシー、公平性、透明性に関する教育
- AIシステムの倫理的評価支援：アルゴリズムバイアス等の評価方法構築
- 患者向けAI倫理情報提供：AIによる診断・治療の適切な理解促進

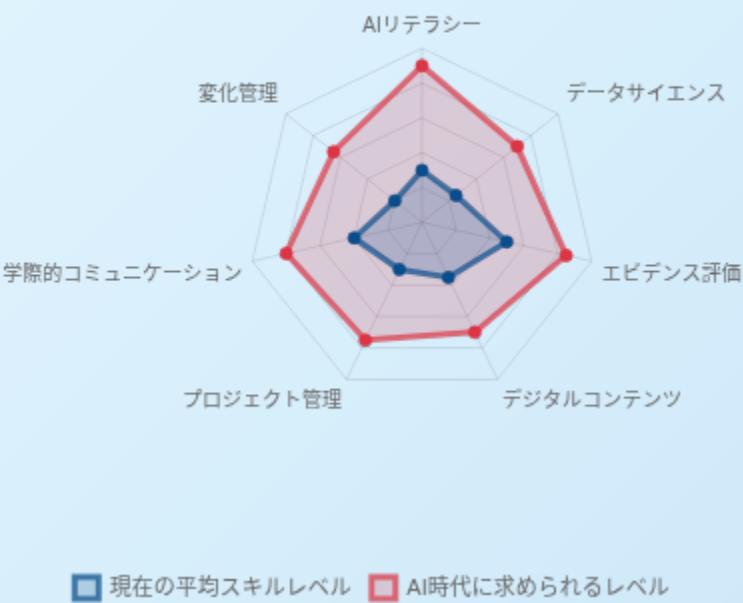
“ 医療AIの倫理的課題を特定し、公正で透明性のある活用を推進する専門家（p.47）

医療司書に求められる新たなスキルセット

AI時代に対応するための必須能力と習得方法

スキル優先度マップ

AI時代の医療司書に求められるスキルバランス



スキル習得の基本方針

- 継続的学習：オンラインコース、学会参加、資格取得
- 実践的トレーニング：実際のプロジェクトを通じた実践経験
- 学際的ネットワーク：データサイエンティスト、医療従事者との連携



AIリテラシー・評価スキル

現在の平均レベル 求められるレベル

基礎 中級 上級

医療AIの仕組み、長所・短所を理解し、適切なツール選択と評価ができる能力

- AI機械学習の基本原則の理解
- 医療向けAIツールの評価方法
- プロンプトエンジニアリングスキル
- AIアウトプットの検証・批判的評価



データサイエンススキル

現在の平均レベル 求められるレベル

基礎 中級 上級

データの収集、整理、分析、保存、共有を支援するスキル

- 研究データ管理（RDM）の基礎知識
- データクリーニング・前処理技術
- 基礎的な統計分析と可視化
- データ品質と管理基準の理解



エビデンス評価スキル

現在の平均レベル 求められるレベル

基礎 中級 上級

臨床研究の質を評価し、AIが生成した情報の信頼性を検証できる能力

- 研究デザインの強みと限界の理解
- システマティックレビュー・メタ分析の方法論
- バイアスリスク評価とGRADEシステム
- AI生成コンテンツの事実検証技術



デジタルコンテンツ作成

現在の平均レベル 求められるレベル

基礎 中級 上級

AIと協働して効果的な教育・研修材料や情報資源を作成する能力

- 視覚的に効果的な教材・資料作成
- AIツールを活用したコンテンツ制作
- 医療情報の可視化・インフォグラフィック
- デジタルストーリーテリング技法



プロジェクト管理

現在の平均レベル 求められるレベル

基礎 中級 上級

情報・知識関連プロジェクトを効果的に計画・実行・評価する能力

- アジャイルプロジェクト管理手法
- 医療情報システム導入プロセス
- ステークホルダー分析とコミュニケーション
- プロジェクト評価と改善サイクル



学際的コミュニケーション

現在の平均レベル 求められるレベル

基礎 中級 上級

多様な分野の専門家と効果的にコミュニケーション・協働する能力

- 医療専門用語と情報科学用語の理解
- 複雑な概念の平易な説明技術
- 学際的チームでの協働・調整能力
- 効果的なプレゼンテーションスキル

世界の病院図書室におけるAI活用事例



日本の先進事例

東京医科大学病院

AIを活用した医学文献自動要約・翻訳システム

GPT-4

DeepL API

成果

情報探索時間 65%削減

利用者満足度 89%

京都大学医学部附属病院

AI搭載型図書館カタログ+チャットボット

医中誌AI検索

ChatGPT API



欧米の先進事例

メイヨークリニック (米国)

AIによるシステムティックレビュー自動支援

SR-Accelerator

BERT NLP

成果

作業時間 78%短縮

精度 92%維持

オックスフォード大学病院 (英国)

AI医療情報評価・検証システム

Evidence Checker AI

PubMed Knowledge Graph



アジア・オセアニアの事例

シドニー王立病院 (豪州)

多言語AI医療情報アクセスシステム

Multi-BERT

Speech-to-Text

成果

12言語対応

少数言語コミュニティ利用増

シンガポール総合病院

AIによる医療情報リテラシー教育支援

AI教育アシスタント

学習分析ダッシュボード

主要な示唆

地域を超えた共通点：情報の質・信頼性評価にAIを活用

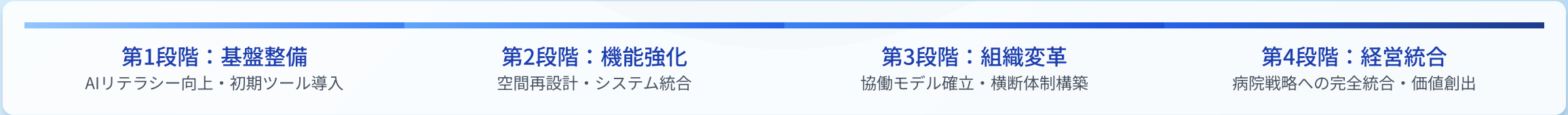
成功要因：AI導入と人間の専門性の組み合わせ

今後の発展：医療司書とAIの協働モデルの確立

未来の病院図書室のあり方



変革のロードマップ



結論と提言



医療司書の進化するビジョン

"単なる情報の管理者・提供者" から "知識時代の医療における中核的存在" へ



医療司書へのアクションステップ

- AIリテラシーの向上：医療AI関連の資格取得・研修参加
- スキル多様化：データサイエンス・研究手法の体系的習得
- コラボレーション拡大：IT部門・臨床研究部門との連携強化
- 先端技術の実験導入：小規模パイロットプロジェクト開始
- エビデンス構築：図書室サービスの価値を示す指標開発

🔗 キャリア開発の方向性：専門性に基づく複数のキャリアパスを意識的に開拓し、病院内での戦略的ポジショニングを強化する



病院経営者への提言

- 図書室の戦略的再定義：知識・イノベーションハブとしての位置づけ強化
- 予算・人材投資：AI時代に適応した図書室インフラと人材育成への投資
- 組織構造見直し：医療司書を意思決定プロセスに統合する体制構築
- 評価指標の刷新：知識管理の質と価値を測定する新指標の開発
- 部門横断協働促進：IT・臨床・研究・教育部門との連携モデル構築

✔ 投資対効果：効果的な知識管理と活用は医療の質向上、医療ミス削減、患者満足度向上、研究生産性向上など多面的な価値を創出



未来展望 — AIと人間の専門性の融合

AI時代の医療司書は、AIの限界を補完し、人間ならではの共感・文脈理解・倫理的判断を提供する。テクノロジーと人間の専門性を最適に組み合わせ、医療の質向上、患者ケア改善、イノベーション促進に貢献する。変化の時代において、医療司書の役割は消滅するのではなく、より重要で戦略的なものへと進化していく。

🧠 知識の民主化 🛡️ 情報品質保証 🎓 継続的学習 👥 コミュニティ形成 ⚖️ 倫理的AI活用

「最も優れた図書館司書は、今日も、そして明日も、テクノロジーの変化に対応しながら、情報の海を航海する人々の灯台であり続ける。AIによって代替されるのではなく、AIを活用しながら医療の知の最前線に立つ存在へと進化する。」(p.92)